

税について考えよう

— 平成23年度 納税表彰式 —

11月16日、アミューズメント佐渡で平成23年度の納税表彰式が行われ、申告納税制度の普及・発展や租税教育の推進などに尽力された次の方々が表彰されました。

— おめでとございます —

★国税庁長官表彰

末武榮子さん

★佐渡税務署長表彰

本間正美さん／萩田由之さん

★作文募集協力校全国納税貯蓄組合連

合会長感謝状

市立高千中学校

中学生の税についての作文

市内の14校300編の応募の中から選ばれた入選者です。

★新潟県教育長賞

金子紗己さん(羽茂中3年)

★新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

坂野雅司さん(新穂中3年)

★佐渡税務署長賞

田川知佳さん(羽茂中3年)

松浦歩香さん(東中3年)

★新潟県佐渡地域振興局長賞

菊池杏奈さん(南中3年)

★佐渡市長賞

小池紗奈さん(真野中3年)

本間玲央さん(松ヶ崎中1年)

曾我拓未さん(真野中3年)

★佐渡市教育長賞

葛原 結さん(羽茂中3年)

本間夏海さん(畑野中3年)

衣笠魁時さん(相川中3年)

熊谷和真さん(畑野中3年)

★佐渡税務団体連絡協議会長賞

中山裕介さん(高千中3年)

★全佐渡納税貯蓄組合連合会長特別賞

山城瑛美さん(金井中1年)

★全佐渡納税貯蓄組合連合会長賞

山本壮太さん(相川中3年)

石田佳奈さん(東中3年)

山本直樹さん(相川中3年)

池田望美さん(相川中3年)

新潟県教育長賞
金子紗己さん



納税表彰式

新潟県教育長賞

日本について理想の税金とは？

羽茂中学校3年 金子紗己

最近、町やテレビで「増税」という言葉を見かけます。「増税」に対しては、家族内でもテレビを見ていても、賛否両論です。今の日本にとって、「増税」は必要なのでしょうか。

私は、税金は必要なのではないかと思っていました。でも、税金について学習した時、税金が無くなると、警察や消防、ゴミの回収や道路整備など、私達が安全に生活するためのものが機能しないということを知りました。つまり「税金」とは、「国民としてサービスを受けるための会費」なのです。

この他にも佐渡市では、様々な事業に税金が使われています。例えば「介護基盤整備事業」です。この事業は継続して行われていて、老人ホームへの入所待機者の解消や、在宅での介護の負担を軽減するために、施設を建設し、その費用を市が補助するというものです。もう一つは「島の応援団推進事業」です。これは新しい取り組みで、佐渡市の最重要課題の一つである「産業振興」と「人口の拡大」を解決するために、地場産業や地域経済の活性化を促進するものです。これらはほんの一部ですが、他にも様々な事業が行われ、皆さんの税金が使われています。

私は、このような取り組みは、地域の活性化につながって、とても良いことだと思いました。でも、一気に多くの

事業を行って大丈夫なのでしょうか。事業には継続して取り組むものが多くあります。それには、毎年たくさん税金が必要です。その税金が足りなくなってしまうと、事業を廃止したり、増税をしなければいけません。そうならないためには、優先すべき事業とそうでないものを考えることが大切だと思いました。

私は、「増税」には反対ではありません。今、日本の消費税は5パーセントですが、スウェーデンでは25パーセントです。でも決して苦しい生活をしているわけではありません。スウェーデンでは、国民が大きな負担をする代わりに、大学の授業料が無料だったり、医療や福祉がとても充実しています。「税金が高い」生活が苦しい「ではないのです。私は、少子高齢化社会だと言われている日本には、スウェーデンのような考え方が必要だと思っています。もしこれが実現され、保育や教育の環境を整えれば、少子化も解決することができるのではないのでしょうか。医療や福祉が充実すれば、病院や老人ホームに行けないお年寄が少なくなるのではないのでしょうか。

税金は、「おこづかい」ではありません。「国民としてサービスを受けるための会費」です。国民にとって、快適な生活のために使われなければ意味がありません。「増税」をしただけ、税金を使う側はもちろん、払う側もその使い方をしっかり考え、将来、税金を払って良かったと思えるようにしたいです。